

ひかり

2019 年 10 月号

第 682 号



All Saints

日本聖公会 三光教会

〒142-0064 東京都品川区旗の台 6-22-24

電話 03(3781)2554

FAX 03(3781)2544

<http://nssk.org/tokyo/church/sanko/stephen/>

創立 救主降誕 1912 年(大正元年)11 月 2 日

言っておくが、このように、悔い改める一人の罪人について、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも多くの喜びが天にある。

(ルカによる福音書 12:49)

「孤独」になること

司祭 ヨナ成 成鍾
ソン ソンジン

キリスト者として生きること、結構孤独なことです。キリストに従うことは、華やかであるよりは、むしろ孤独です。キリストは、従いたいと願う人に対して、ご自身のことを次のように語って戒められました。“狐には穴があり、空の鳥には巢がある。だが、人の子には枕するところもない。”(ルカ9:58)これは孤独の極めだとも言える文学的な表現です。

キリスト教の思想において、孤独は寂しさとは違います。日本語ではそれほど区別せずに使われますが、英語で孤独は solitude、寂しさは loneliness にあたり、それぞれ違うニュアンスになります。寂しさとは他人を探し求めている辛さに近い感情です。それに対し孤独とは独りであるがゆえに、自分自身と語り合いながら内面を見つめ、または自分を越えた自然や神たる存在と繋がるような状態です。そういった意味で、孤独はあらゆる創造的行為にとって必要なものと言えます。“寂し

さは一人でいることの辛さを、孤独は独りにいることの幸いを表現する言葉である”(パウル・ティリッヒ)と言えます。

『号泣する準備はできていた』で直木賞を受賞した江國香織さんは、その小説の中で、孤独についてこう表現しました。“昨年、母が亡くなった。母をあの世に送るのは辛いことだった。本当に辛かったけど、母を葬ってから、これから私は自由だ、という思いが湧いてきた。自由とはこれ以上、なくすことが何もない孤独な状態を意味する。”彼女は孤独を自由という言葉を用いて表現しましたが、これはキリスト教の教えに近いのです。なぜなら、私たちは孤独の中でこそ、本当の自分と会えますし、神様とも会えるようになります、そこから何事にも揺るがない真の自由が得られるようになるからです。それゆえ、キリストはしばしば独りで祈りながら、大好きな孤独を楽しみました。皆さんも孤独という聖なる空間へと時折、自分の身と心を持っていつてみるのは、どうでしょうか。

10月、11月の予定

◆ 10 月				◆ 11 月			
20 日(日)	聖霊降臨後第 19 主日	1 日(金)	諸聖徒日	2 日(土)	諸聖徒日	11 日(日)	主教マルチン
27 日(日)	聖霊降臨後第 20 主日	3 日(日)	聖霊降臨後第 21 主日	12 日(火)	黙想会(午後 7 時半)	18 日(土)	聖霊降臨後第 22 主日
28 日(月)	三光教会秋の大バザール	4 日(月)	11 月逝去者記念礼拝(聖餐式)	19 日(土)	聖書に学ぶ会(新約)	25 日(金)	聖霊降臨後第 23 主日
	使徒聖シモン・使徒聖ユダ日	5 日(火)	聖霊降臨後第 22 主日	26 日(日)	黙想会(午前 10 時半)	29 日(火)	聖書に学ぶ会(新約)
		10 日(日)	三光教会第 107 回創立記念日	27 日(月)	黙想会(午後 7 時半)		殉教者おとめセシリア
		11 日(月)	主教マルチン		黙想会(午後 7 時半)		殉教者主教ローマのクレメント
					黙想会(午前 10 時半)		降臨節前主日
					黙想会(午後 7 時半)		降臨節第 1 主日
					黙想会(午後 7 時半)		12 月逝去者記念礼拝(聖餐式)
					黙想会(午後 7 時半)		日本聖公会初代主教ウイリアムズ

男子会だより (9月)

9月15日(日)の男子会例会は
秋のイベント対応

1. メンバー間での意見交換について打ち合わせをいたしました。
秋のイベントで多くの作業要員が必要なのは10月27日(日)のバザーでの焼き鳥提供です。前日からの仕込みや準備作業、そして当日の焼き鳥を焼く作業や販売係などの要員が必要ですが、男子会メンバーの高齢化で要員確保が大変になっています。男子会以外の若手の方の支援もよろしくお願いいたします。

また男子会例会ではイベント対応の話が多く、メンバー間での信仰や聖書等の内容について、意見交換が最近少なくなっていますので、今後の例会では少しその時間をとり、話題を提供し合い、気楽に、率直な話し合いの場を持つことにしました。(記・平山 新)

■教会と私

今も心を支える言葉

福井 康一

私が三光教会に通い始めたのは今から7年前のことです。当時、私は精神の病を発病し、病院に通っていました。「まさか自分が精神病にかかるとは……」仕事にも就けず、すっかり自信を失い、お先真つ暗といった状態でした。そして助けを求めるように教会へ足を運びました。

教会へ通い始めた当初は、そんなに信仰心が固まっていたわけではなく、精神状態も不安定で教会を休みがちでした。もう教会に通うのはやめようと伝道師さんには通いなし。その中で少しずつ信仰を固めていけば、それでいいじゃないか。」と私の肩に手を置き、声をかけて頂きました。

この言葉は私の心に深く刻まれました。この時を境に私はきちんと教会に通おうと決めました。伝道師さんから頂いた言葉が、今でも私の信仰生活の基本となっています。

小笠原聖ジョージ教会

出張レポート

聖職候補生 ヤコブ荻原充

ルカ福音書15章1節以下の見失った羊のたとえを、小笠原聖ジョージ教会で聞いていたときにわたしは99である内地の教会を残して、1としての小笠原聖ジョージ教会を神は愛され、東京教区に小笠原聖ジョージ教会があることを一緒に喜びなさいと神から言われている気がしました。内地にある教会の立場から見れば自分の教会のことで精一杯で、小笠原のことを考える余裕などないかもしれない。しかしながら、都市部における経済的・合理的な論理だけで判断して、果たしてよいのか。実は便利さや快適さのなかでわたしたちが見失っているものに光を当ててくれる象徴的な存在が小笠原聖ジョージ教会なのではないか。明日から都会の生活を捨て、島に住みなさいということではなく、今のわたしたちの生き方

を相対化してくれるという意味において、小笠原聖ジョージ教会の存在には重要な役割があるのではないかと思います。

小笠原は、自然・人との関わりにおいて、ある自分の存在を色濃く感じさせてくれる場所でした。いわば関わりの密度を色濃く感じる。自然や人と共生することには、自分の思い通りにならないことが伴います。島の人は、人間の脆さや弱さを知っており、痛みを知っている。天候によって船が入港しなければ食料や生活必需品は手に入らない。また戦争によって家族や友人と離れ離れに生活をせざるを得なかった。内地に疎開させられ、食べるものや着るものに事欠き、欧米系であると差別の目で見られながら生きるしかなかった。そのようななかで生き抜いてきたからこそ優しくなれるし、今ここに生きているという実感や喜びを深く感じている。

一方、都市に生活しているわたしたちは、意図的に自然や人との関わりの密度を薄めることによって快適さを手に入れている。しかしそれと引き換えに、関わりにおいてある存在なのだということを、

つまり自分の存在を見失っているのではないでしょうか。人との関わりの煩雑さを避ける一方、孤独感にさいなまれ、心の底ではぬくもりを求めている。能力に頼り、人間独りだけで生きることができるといふ錯覚を抱いている。このような便利な快適さの中で大事なものを見失っている者に対して光を当ててくれるのが、小笠原なのではないか。それは小笠原の方々に「『幻想の世界』で生きることを選ぶのか、それとも関わり苦労の伴う、生々しい『現実の世界』で生きることを選ぶのか」という問いを投げかけられている気がしました。

◆教会報「ひかり」に御寄稿を!!

エッセイ「教会と私」。内容は自由。400～500字程度。広報委員会にお届けください。いつでもお待ちしております。

第 107 回創立記念日礼拝

説教者：成 成鍾司祭

記念撮影在り、愛餐会あり。

持ち寄りでの愛餐会に加わり

懐かしいあの人やこの人とお話する一時を

教会のお掃除にご協力を

聖堂内外のお掃除の協力者が少なくなりました。土曜日の午前10時から1時間程ご奉仕ください。ご協力いただける方は直接参加してください。

はじめて教会にいらした方へ

礼拝様式に馴れない方は椅子にお掛けになったままで結構です。

●礼拝中の献金は、信施金として伝道のために献げられるものです。金額は自由です。

●わからない点は隣の席の者か案内係にお聞きください。

礼拝のご案内

■主日礼拝

午前 7:00 早祷・嘆願

午前 7:30 聖餐式

午前 9:00 ステパノ会

(日曜学校)礼拝

午前 10:30 聖餐式

午後 4:00 夕の礼拝

■平日礼拝

月曜日から土曜日まででは、毎朝 6:30 の早祷に引き続いて聖餐式

日本聖公会 三光教会 教会報「ひかり」 2019年10月号(第682号)

発行者：司祭 成 成鍾 編集・印刷：三光教会広報委員会